

## 平成 22 年度「世界エイズデー」実施要綱

## 1 名 称

平成 22 年度「世界エイズデー」

## 2 趣 旨

WHO（世界保健機関）は、1988 年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月 1 日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱した。

1996 年から、WHO に代わって、国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなった UNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しているところである。

我が国としても UNAIDS が提唱する“World AIDS Day”に賛同し、その趣旨を踏まえ、12 月 1 日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図る。

## 3 主 題（キャンペーンテーマ）

「続けよう ～Keep the promise, Keep your life～」

趣旨等については、別紙「平成 22 年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて」を参照のこと。

## 4 期 日

平成 22 年 12 月 1 日。ただし、地域の実情等に応じ、12 月 1 日を中心とした前後の日でも差し支えないものとする。

## 5 主 唱

厚生労働省

## 6 実施方法

## (1) 厚生労働省

関係行政機関、財団法人エイズ予防財団、エイズ関連 NGO（非政府組織）等の関係団体、民間企業、報道機関等の協力を得て、全国的な啓発活動の推進を図る。主として 12 月 1 日を中心とした前後の日々に記念事業を行うほか、年間を通じた普及啓発のためのキャンペーンを実施する。

## (2) 都道府県、保健所を設置する市及び特別区

関係機関、関係団体等との連携を密にし、それぞれの地域の実情に応じた広報計

画、実施計画等に基づき、次の事項も参考にしながらエイズに関する正しい知識の啓発活動を展開する。

- ① 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等の協力を得た広報活動の実施
- ② ポスター、パンフレット、リーフレット、ビデオ等の作成・配布等による啓発活動の実施
- ③ 研修会、講習会、講演会、シンポジウム、街頭キャンペーン等の実施
- ④ 学校、企業、地区組織等に対する呼びかけ及び協力
- ⑤ 一般住民のみならず、相談窓口職員、医療従事者、教育関係者等への啓発

なお、啓発活動を行うに当たっては、エイズに関する最新の情報を入手するとともに、平成 18 年 3 月 31 日付健疾発第 0331001 号厚生労働省健康局疾病対策課長通知「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の運用について」を参考とすること。

## 7 普及啓発における留意点

### (1) 個別施策層に焦点を当てた普及啓発

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（平成 18 年厚生労働省告示第 89 号）の趣旨を踏まえ、我が国に在住するすべての人々に対して、正しい知識の普及啓発の強化を図ること。特に、性に関する意思決定や行動選択に係る能力の形成過程にある青少年、言語的障壁や文化的障壁のある外国人、性的指向の側面で配慮の必要な同性愛者並びに性感染症としての HIV 対策を進める観点から性風俗産業の従事者及び利用者への取組を促進すること。

### (2) 人権の尊重

エイズは、HIV 感染後も長い無症状期を社会の一員として生活を営む病気であり、周囲の人々の理解と支援が必要であること。したがって、患者・感染者が尊厳をもって暮らせる社会づくりが必要であること。

HIV の感染力は弱く、しかも感染経路が限られているので、日常生活では HIV に感染することはないこと。

特に医療現場における患者・感染者の受入れを改善していくために、エイズに対する社会全体の意識の向上と、エイズ診療に取り組む医療関係者への支援を訴え、患者・感染者が安心して医療を受けられる環境づくりを進めること。

### (3) HIV 治療の進歩と検査・早期治療の重要性

HIV 治療の進歩に伴い、患者・感染者が長期間障害を持ちながらも療養できるようになったことから、平成 10 年 4 月から感染者は身体障害者の認定を受けられるようになったこと。また、身近な医療機関で適切な治療を受けられる体制がほぼ整いつつあること。

早期発見による適切な治療の効果がますます高まっていること、検査は医療機関

や最寄りの保健所等で受けることができること等の周知を図り、自発的に検査を受けやすい環境の整備に努めること。

なお、厚生労働省においては、検査・相談の利用に係る情報について、各種イベント等集客が多い機会を利用し、積極的に国民への周知を図るが、都道府県、保健所を設置する市及び特別区においても、地域の実情に応じて、積極的に情報の周知に努めること。

(4) 日本エイズストップ基金

財団法人エイズ予防財団には、「日本エイズストップ基金」が設置されており、募金を通じてNGO等を支援しているので、その活動等について周知すること。

8 その他

広報の実施に当たっては、患者・感染者等の人権や社会的背景に配慮するとともに、血友病患者やその家族に対する配慮が必要である。

## 平成22年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて

### 1 キャンペーンテーマ

「続けよう ～Keep the promise, Keep your life～」

### 2 趣旨

本キャンペーンテーマは、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図るためには、医療機関、民間企業、行政機関、NGO等のエイズ対策関係者がそれぞれの活動に取り組み続けることはもちろんのこと、我が国に在住するすべての人々がエイズ対策関係者の活動や患者・感染者に対する理解を深めるなど、HIV/エイズに対する関心を持ち続けることが重要であることを踏まえ、主として、次に掲げるメッセージを発信するものである。

#### ① 仕事も生活も続けよう

HIVに感染している人が初めて感染を知ったときに、ショックと混乱で今までの生活が続けられないと思ってしまう。思いあまって会社を辞めてしまう。そんな話をしばしば聞きます。でも、辞める必要は全くありません。仕事を含め Keep your life、今の生活を維持し、その基盤の上に治療を考えていくことが大切です。

#### ② 抗レトロウイルス治療を続けよう

HIV感染が分かったら、生活を維持しつつ、適切な時期に治療を開始することで、エイズの発症や発症した場合の病状の進行を抑えることが可能になります。HIVというウイルスが体内で増えることを妨げる抗レトロウイルス薬（ARV）を複数組み合わせる抗レトロウイルス治療（ART）を開始したら、途中で止めずに治療を続けることが大切です。

#### ③ エイズの流行と闘う人達を支え続けよう

厚生労働省エイズ動向委員会の報告（2009年）では、男性同性間の性感染がHIV新規感染者報告のほぼ7割、エイズ患者報告のほぼ5割を占めています。大都市圏のゲイコミュニティで予防や検査を呼びかけてきた成果の反映ではありますが、同時に国内のHIV感染が少なくともこの10年、ゲイコミュニティを中心に広がってきたことを示唆するデータでもあります。感染の現状に対応し、予防対策は男性同性間の性感染に焦点を当てる必要があります。ただし、その努力はゲイコミュニティだけで完結するものではありません。エイズの流行に大きな影響を受けているコミュニティを取り巻く人と社会が広くその努力の必要性を理解し、支援することがエイズとの困難な闘いを継続する大きな力になります。

#### ④ 予防と支援のメッセージを送り続けよう

エイズの流行が世界に広がり始めてから既に約30年が経過しています。何度も同じメッセージを繰り返されたのでは、さすがに心には届きません。送り手も疲れてきます。HIVはそうした厭戦ムードを糧に広がるウイルスでもあります。縁あってエイズ対策に関心

を持った人達が疲れ切ってしまうまいよう、予防、治療や支援のメッセージを楽しく送り続けられる工夫と励ましも大切です。

⑤ ユニバーサルアクセスを目指し続けよう

HIV/エイズに関する予防、治療、ケアや支援を必要とする人が、誰でもその必要なサービスを利用できる。それがユニバーサルアクセスです。日本を含む世界中の国が2010年12月末までにユニバーサルアクセスを達成することを約束しています。その約束は果たせそうにありませんが、実現に向けた努力は約束期限が過ぎても続ける必要があります。それがKeep the promise、約束を守ることです。

⑥ 関心を持ち続けよう

以上のすべてのことは、エイズ対策への社会的な理解が広がり、関心を持つ人が増えることで初めて可能になります。感染症に対する関心はその時々での社会の出来事や雰囲気によって変化しますが、HIVは社会の雰囲気や一時的な対策の盛り上がりで流行が拡大したり、終息したりするタイプのウイルスではありません。対策もまた息長く続ける必要があります。HIV陽性者は既に会社、学校、病院、近所の商店街や同じ団地や…といった様々な場所で生活しています。もう既に社会の中で一緒に生きている。そのことを理解できる機会が増えれば、HIV/エイズは他人事ではないといったメッセージも、異なる意味を持って伝わってくるかもしれません。

3 留意点

上記2の趣旨に対する理解の促進を図るために、本キャンペーンテーマの使用に当たっては、次に例示するメッセージを添えるもののほか、適宜、上記2の趣旨及びメッセージを周知するものとする。

① 例1

続けよう ～Keep the promise, Keep your life～

エイズの原因となるHIVというウイルスに感染しても仕事をやめることはないし、生活も続けられます。治療の進歩は、安心して検査を受けられる条件を整え、予防対策にも貢献しています。エイズに取り組み続けたたくさんの方がいてここまできました。社会の理解が広がり、関心を持つ人が増える。治療も予防も、そのことに支えられています。

② 例2

続けよう ～Keep the promise, Keep your life～

仕事も生活も続けよう  
抗レトロウイルス治療を続けよう  
エイズの流行と闘う人達を支え続けよう  
予防と支援のメッセージを送り続けよう  
ユニバーサルアクセスを目指し続けよう  
関心を持ち続けよう

明日を守る。生活を守る。今こそそのメッセージを伝えたい。  
やめないこと、続けることが大切だ。